

「ふろしき」

<p>1 資料の特質</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本資料は、我が国の家庭では、伝統的にどこでも使われてきたと思われるふろしきを取り上げて、そのよさを知ることを通して、日本の人々が大事にしてきた知恵や心について考えを深めることができるように構成したものである。 ○ ふろしきは、子どもたちの日常生活の中ではほとんど使われていない。しかし、家庭生活では、大切なものを包むときや、贈り物をするときなどに、今でもよく用いられている。このふろしきは、日本の文化や伝統が生きた好例であり、いろいろな伝統的なものに関心を深める手掛かりとなる。 ○ 本資料を用いた指導では、子どもたちが実際にふろしきを使っていろいろなものを包んでみたり、結んでみたり、また、下から抱えてみたり、肩やひざにかけてみたりする多様な体験を通して、ふろしきに親しみ、かばんや紙袋などとは違う包み方のよさを実感できるようにしたい。
<p>2 展開例</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 ふろしきを実際に見て、ふろしきを使ったときの体験や、実際にものをふろしきに包んでみての感想を発表する。 2 資料「ふろしき」を読んで話し合う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) ゆう子は、ダンスの中からふろしきを見つけたとき、どんなことを考えたでしょう。 (2) お母さんがいろいろなものを包んで見せてくれたとき、ゆう子はどんなことを思ったでしょう。 (3) 挿絵の包み方を参考にして、実際にふろしきでいろいろなものを包んでみましょう。 (4) 実際にふろしきで包んでみて、どんなことを感じたでしょう。 3 わたしたちの身の回りに昔からあるもので、日本人の知恵が生きていると思うものにどんなものがあるか話し合う。 4 日本人の知恵について例話を聞き、さらに興味をもつ。